

優先順位	1
------	---

## 地域制緑地指定事業について

公園緑地部緑政課

### 1 目的

浜松市では、平成 22 年 4 月に新たな「浜松市緑の基本計画」を施行し、この中で、市内のみどりをそれぞれの役割に応じた適切な制度により保全するとともに、生き物の生存基盤としてその機能を最大限発揮できるように、適切な維持管理を行うとともに、新たに保全すべき緑地として 2,600ha を担保することを緑地保全の目標と定めている。

現在、都市の自然環境及び都市景観を保全し市民の暮らしを向上させる目的で、地域制緑地として特別緑地保全地区(1 地区、6.7ha)及び風致地区(7 地区、1,272.6ha)を指定しているが、区域の見直しや種別変更の必要性が生じている風致地区や、担保性の低い市民の森制度による指定地区の見直し等への対応が求められている。

このため、市内の自然環境調査、景観調査、緑地調査を実施し、この結果を踏まえ基本方針を策定し、地域制緑地の指定・拡大・見直しを進めるものである。

### 2 事業内容

平成 22～26 年度 33 百万円（所管課見積額）

地域制緑地指定区域の概況調査、地域制緑地拡大予定区域の詳細調査及び関係者への説明、地域制緑地の指定及び区域変更に関する都市計画決定協議等

#### 【協議要旨】

- ◆ 地域制緑地現況調査を実施し、指定方針を作成する。

優先順位	2
------	---

## 動物園長期総合整備事業について

公園緑地部動物園

### 1 目的

施設の老朽化、少子高齢化やレジャーの多様化などにより、入園者数が減少傾向にあるなか、魅力的な動物園を目指し入園者の目線に立った動物の生態や行動に主眼をおいた展示施設の再整備が注目されている。

このような中で、国内の多くの動物園は動物にやさしい環境づくりを目指しながら、展示方法に各園独自の工夫を凝らした再生を図り、希少動物の繁殖にも力を入れた動物園の運営を行っている。

本市においても、平成 19 年度から長期総合整備事業として約 10 か年の計画で施設改善に取り組んでおり、平成 20 年度に再整備した小獣舎は、一般公開後多くの入園者が訪れ、入園者数において前年比 13%増と施設改善の効果を実績値として示した。

現在、日本平動物園や豊橋総合動植物公園など、近隣類似施設における設備投資に対する計画やその効果がクローズアップされる中、本市において対応は急務な状況にあり、長期総合整備事業を着実に推進する必要がある。

### 2 事業内容

目標としている入園者数 41 万人（平成 26 年度）に向けて、長期総合整備事業における第二次整備事業であるアフリカ園及び休憩施設の施設整備事業を核として、ソフト・ハード両面の事業を推進する。

平成 23～26 年度 アフリカ園整備

所管課見積額 460 百万円

○第一次整備 小獣舎整備 入園者 13%増・実績

○第二次整備 アフリカ園整備 入園者 15%増・目標

また、国内で唯一の展示動物であるゴールデンライオンタマリンを経営資源として情報発信し、入園者数の増加を図るとともに、動物園が重要な役割として担う豊かな社会性を養う教育の場として、子ども達を中心に広く市民に生命の大切さや絆の尊さを伝える生命（いのち）の教育事業に積極的に取り組んでいく。

#### 【協議要旨】

◆ 集客が見込める施設整備について検討する。